

女の新聞

クロワッサン
10日・25日の
月2回発行

介護
151

高齢者がさまざまな事情で手放すペット。 引き取って大切に世話をしています。 白井睦子さん

「権兵衛、散歩に行こー」。白井睦子さんに声をかけられた大きな秋田犬は、待ってました、とばかりに目を輝かせた。散歩は毎日、朝夕2回、30分ずつ。白井さんを含め6人のスタッフで68頭(06年1月)を手分けして行方が、それでも「餌やりと散歩で一日終わってしまうこともしばしば」(白井さん)。

白井さんが代表を務める「日本ドッグホーム協会」は羽衣伝説で名高い景勝地、静岡市三保海岸のすぐそばにある。入院や入所などさまざまな事情でペットの世話ができなくなったお年よりから犬や猫を引き取り、代わって面倒を見ようという日本では例を見ないボランティア団体だ。200坪ほどの土



双方の病気のため、愛犬チコ(故)を託した船津雄三さんと信子さん。「チコも、私たちの思いも大切にしてもらえて満足」(写真提供・船津さん)

地には、犬と猫が約170匹も。「元の飼い主は、おもに健康上の理由からペットの世話が立ちゆかなくなつたご高齢の方々。家族同然だったペットの世話を引き継ぐことで、お年よりの心や生きがいを支えられたら、と」



犬たちと海岸沿いの遊歩道を散歩する白井さん。「毎日、散歩だけで6時間です」。事故防止のため、1回にひとり1頭が基本。犬の名、成育歴、性格、相性などすべて把握する。



集団が苦手なジャッキーは事務所の一角に。対応は個性、状態に合わせて。

ペットの写真カレンダーにして元飼い主に「ペットへの思いは別れた後も同じ。自分の手を離れても元気でいる姿が、喜ばれます」



えんぞるはうす大塚 日本ドッグホーム協会

2006年		1月	
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29	30	31	

高齢化でペット問題は切実。

会の設立は01年。犬の美容室とホテルを営む一方、犬の飼育をサポートするペットシッターの仕事をしてきた白

井さんが「お年よりとペット」の問題に直面したのは、ある老夫婦と犬3頭という「家族」との出会いだった。

「夫亡き後も奥様は一人で3頭の世話を続けられたもの、ご自分も病気に心残り。ただ3頭のことばかり。お子さんたちは犬好きではないため、最後は私に、この子(犬)たちをよろしく」と



今年1月に移転したばかり。ペットたちの住まいは廃材などを利用し、すべてスタッフで手作り。猫は一匹ずつ大切にケージ飼われている。日本ドッグホーム協会 ☎0543-36-5454 <http://www.doghome.jp>



元飼い主からは、世話ができなくなった事情をきちんと聞き取る。「必要なくなったから」という人はお断りしています(白井さん)

この時、白井さんはペットとお年よりの絆について、仕事を超えたメッセージを受け取ったように思ったという。「切実に感じました。お年よりにとってペットがどれだけ大切な存在か、世話やペットの行く末について、どれほど不安や心配を抱えておられるか」

夫の死後、白井さんは仕事を離れて3頭を引き取り、それを契機に会を立ち上げた。当初は活動と仕事を並行させ、約2年前からは会の活動だけに。「運営は大変ですが、純粋にお年よりとペットを支える活動を続けたくて」

高齢者を対象にさまざまな悪徳業者が横行する時代。不要な誤解や疑いを

持たれるかもしれない要素はできるだけ排除したかった。引き取りの対象は、健康上の理由などから世話ができなくなったお年よりのペットに限定。利用者の経費は、基本的に引き取り時の交通費など実費のみ。当然、運営の困難は当初からついて回った。

「その後」を安心して託してもらおうことで、ペットを愛するお年より自身を支えたい。

000万円の必要経費は趣旨に賛同する人たちの年会費(法人10万円、個人正会員5万円、個人賛助会員1万円)と寄付金でまかなう。ペットフードや雑貨などの寄付、散歩などのボランティアは常に募集中。それでも毎月約150万円の赤字に頭をかかえてしまう。

「ペットが心配で入院や入所をためらう人も、その後を安心して託してもらおうことで、ペットを愛するお年より自身を支えたい。」